

日本磁気共鳴医学会研究プロジェクト
急性期脳梗塞における MRI 検査の標準化に関する研究 医師分科会
日本放射線科専門医会・医会
CT/MRI 灌流画像の標準化に関するワーキンググループ
平成 17 年度第二回会議 議事録

平成 17 年 6 月 25 日 15 時～17 時 経団連会館

出席者：井田正博、五十嵐博中、工藤與亮、黒岩大三、佐々木真理、庄内孝春、高木亮、
高野浩一、原田雅史、林田佳子、前田正幸、松井美詠子、山田恵、渡辺嘉之
(アイウエオ順、敬称略)

1) 研究組織について

佐々木より平成 17 年度日本放射線科専門医会・医会ワーキンググループに正式採択された旨報告があった。また、日本磁気共鳴医学会研究プロジェクト の企業分科会新設に伴う組織改編について提案があり了承された。今後、企業分科会と密接な連携を持ち、産学協同で MRI 検査の質向上と臨床的意義確立をめざしていくこととした。

2) 各社解析画像の検証作業について

工藤先生より進捗状況の報告があった。MR 灌流画像に関する相互解析がある程度進展したことが報告された。一部のメーカーにおいて解析結果を DICOM 出力できない、元画像の scaling が不一致であるなどの問題があることがわかり、今後改良についてお願いしていくこととした。また、企業分科会に依頼中のアンケートの回収状況について報告があった(6/25 現在で 3 社)。

3) 実践的ガイドライン(procedure guideline)について

高木先生、庄内先生、黒岩先生より CT グループの草稿について説明があった。また、井田先生、山田先生、渡辺先生より MRI グループの草稿について説明があった。体裁は CT グループのものに合わせ、また本文をできるだけ簡潔にしていくこととした。推奨は一般的な内容とし、詳細は本文にて触れることとした。本文では、文献の引用に留まらず批判的吟味をした上で策定者の意見を明記することとした。CT, MRI 共通の事項、基礎的事項、参考となる総説などに関しては巻末に付録として記載することとした。

今後、ML で草稿の電子ファイルを班員に配布し、具体的な意見やコメントを集めることとした。その後草稿間の書式・体裁などを統一し、早期の公開をめざすこととした。また、外部評価についても検討することとした。

4) 神経系拡散強調画像の標準化について

渡辺先生より拡散強調画像に関するアンケート結果(全国 430 施設)について報告があった。拡散強調画像を 24 時間撮像可能な施設が約半数程度あり、急性期脳梗塞における拡散強調画像の標準化の重要性が再認識された。

佐々木より拡散強調画像表示法の標準化に関する実験結果が示された。同一ボランティアを 4 社 6 機種で撮像したが、B0 画像の信号強度を基準に表示条件を設定することで、どの装置でも同様のコントラストで表示可能であることが示された。

林田先生より拡散強調画像の読影実験プロトコルについて説明があった。内容について大筋で了承された。1/3 MCA rule の具体的基準については ASIST-Japan の該当 WG の答申を待つこととした。Parallel imaging の有無については考慮せず、画質については事前の中央判定で評価することとした。ROC 解析では patient selection bias が本来避けられないため、後方視的に症例を収集する方向で検討することとした。平井先生、林田先生に症例登録基準を策定して頂き、症例登録を進めていくこととした。

1/3 MCA rule, ASPECTS は必ずしも拡散強調画像に適した判定法とはいえない可能性があり、今後新たな手法についても検討していくこととした。

6) その他

佐々木より磁気共鳴医学会研究プロジェクトの web ページとメーリングリストが百島先生のご尽力によって開設されたことが報告された。百島先生には広報委員にご就任頂き、今後とも広報活動をお願いすることとした。

佐々木より ASIST-Japan との連携について提案があった。今後も各グループの特色を生かしながら相互に協力していくことで同意を得た。また、佐々木より脳卒中学会シンポジウムの結果、および今後の成果発表の予定について報告があった。

次回の会議は 9 月東京開催(第 33 回日本磁気共鳴医学会総会の会期)を予定し、医師分科会・企業分科会合同会議とすることとした。

(文責 佐々木)